

# 新たな技術・発想で切り拓く魚食の未来

日時 10月24日(木) 10:30~12:00

入場無料!

場所 東京国際展示場(東京ビッグサイト) 東6ホール メインステージ

■りんかい線 「国際展示場」駅下車 徒歩約7分

■ゆりかもめ 「国際展示場正門」駅下車 徒歩約3分

アグリビジネス創出フェア2013は全国の産学の各機関の有する農林水産・食品分野などの最新技術や研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し研究機関間や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する「技術・交流展示会」です。

## 講演

### ○我が国及び世界の水産業をめぐる現状

八木 信行(東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授)

世界人口の増加や健康志向の高まりを受け、世界の水産物消費量は増加している反面、我が国の水産物消費量は減少傾向です。グローバル化した経済の中、我が国水産資源を利用し続けていくためには、千年以上にわたって発展させてきた管理の知恵と新たな技術の組み合わせによって、適切に管理し、持続的に利用していくことが重要です。我が国の水産資源と漁場環境をめぐる動き、水産業をめぐる国際情勢についてご紹介するとともに、今後、進めていくべき技術開発について考えます。



### ○マグロを中心とした養殖技術開発の現状 ~ブリ、ウナギ、陸上養殖を含め~ 虫明 敬一((独)水産総合研究センター西海区水産研究所 まぐろ増養殖研究センター長)

我が国の養殖業は、魚食を支える産業として、重要度が増しています。天然資源の漁獲量が頭打ちであり、国際的に資源管理が強化される中、養殖はどこまで魚食に貢献できるのでしょうか。企業参入が進むクロマグロを中心に、ブリ、ウナギ、陸上養殖も含めた養殖技術開発の現状についてご紹介するとともに、今後進めていくべき方向について考えます。



## スペシャル対談

元漁師、現水産庁職員として、各種メディアを通じて情熱的な語り口で魚の魅力を伝える、「ウエカツ」と上田勝彦氏。「からだに美味しい魚の便利帳」の執筆、サイト「市場魚貝類図鑑」を主宰、食べた魚は3千種を超える「ぼうずコンニャク」と藤原昌高氏。「魚離れ」が進んでいるといわれる中、消費者の簡便化思考に応えながら、魚食の魅力をどのように伝え、水産物消費をどのように拡大するのか。魚食の未来を拓く新たな発想、求められる取組について語り合います。



島根県水産アドバイザー  
藤原 昌高 氏

VS  
対決



水産庁 研究指導課  
情報技術企画官  
上田 勝彦 氏